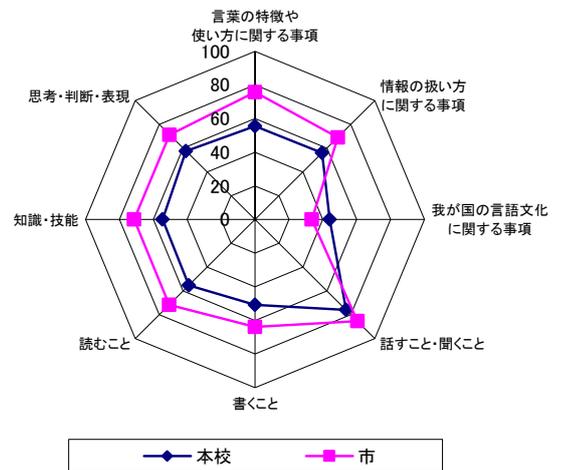


宇都宮市立田原西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	55.6	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	56.0	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	44.0	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	76.0	85.5	86.5
	書くこと	50.7	63.9	65.8
	読むこと	55.3	71.6	69.5
観点別	知識・技能	54.5	71.3	72.9
	思考・判断・表現	57.6	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

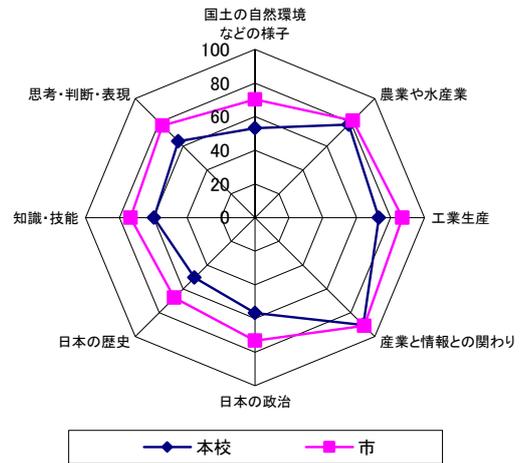
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○漢字の読みについては、比較的よくできていた。 ●文と文との接続を問う設問の正答率が16%で、市の平均を大きく下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字オリンピックを開催して意欲付けを図り、宿題や朝の学習で練習するなど学校全体で取り組んだ成果が表れてきていると考えられる。今後も、児童の意欲を喚起しながら、漢字練習を励行していく。 ・「例えば」などの接続詞を使って話したり書いたりする活動を取り入れる。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●文中から結果を表す部分を問う設問の正答率が市の平均を下回っており、原因と結果など、情報と情報との関係について理解できていない。	・文の構成を意識できるよう、朝の「ことばタイム」で様々な文章に触れるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○和語、漢語、外来語についての設問の正答率が44%で、市の平均を上回っている。	・今後も、漢字練習や自主学習などで、漢字を書くだけでなく、漢字の由来や成り立ちなどに触れるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○話の内容を捉える設問の正答率は96%で、市の平均と同等である。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える設問の正答率は48%で、市の平均を大きく下回っている。	・本校の取組である「ことばタイム」の活動をさらに充実させ、話し手の意図を捉えて聞き取る経験を積ませていく。 ・国語や総合的な学習の時間などで、聞いたことをもとに、自分の言葉で表現し、報告する活動を取り入れる。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○自分の意見とその理由を明確にして書くことは、比較的よくできていた。 ●指定された長さや段落で文章を書くことや目的に応じて文章を書くことは、市の平均を大きく下回っている。	・朝の「ことばタイム」や授業の振り返りの中で、書く活動を多く取り入れ、キーワードを入れたり字数制限を設けたりして条件に合う文章を書けるよう、継続的に指導していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○物語の全体像を具体的に想像して読むことはできている。 ●描写を基に登場人物の様子を捉えたり、叙述を基に文章の内容を捉えたりすることに課題が見られる。	・説明文や物語文の読み取りでは、本文中にある言葉を基に内容を捉えられるよう指導していく。 ・日々の読書を奨励したり、図書館司書と連携した読書活動を取り入れたりして、より充実した読書体験をさせることで、読解力の育成を図る。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	53.1	70.3	66.4
	農業や水産業	78.2	81.6	75.3
	工業生産	73.1	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	90.4	91.0	81.3
	日本の政治	56.7	73.2	75.3
	日本の歴史	50.5	67.4	68.5
観点別	知識・技能	59.6	73.5	72.5
	思考・判断・表現	64.1	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

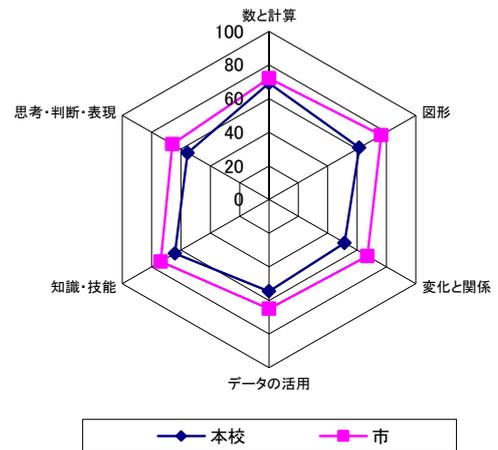
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均より低い。 ●赤道について理解しているかを問う設問の正答率は38.5%で、市の平均を大きく下回っている。 ●季節風について理解しているかを問う設問の正答率は38.5%で、市の平均を大きく下回っている。	・授業で地図を積極的に活用し、国や大陸、海洋の位置関係を視覚的に捉える学習機会を計画的に設定する。 ・社会科に限らず、国名や国旗が出てきた際には地図で位置を確認し、地理的理解を日常的に深める。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均より低い。 ●水揚げされた魚の出荷作業における工夫について、資料をもとに判断する設問の正答率は88.5%で、市の平均を6.4ポイント下回っている。 ●米の生産が盛んな地域について、地図から読み取る設問の正答率は80.8%で、市の平均を2.9ポイント下回っている。	・資料集やICTを活用し、資料に触れる機会を増やすとともに、資料の読み取りに慣れるための練習を繰り返す。 ・問題文を丁寧に読む姿勢を育て、資料から必要な情報を正確に読み取る習慣を身に付けさせる。 ・授業や単元のまとめの時間を活用し、調べたことを図やグラフに整理して表現する経験を積ませる。
工業生産	平均正答率は、市の平均より低い。 ●日本の貿易の変化について、グラフから読み取ったことを記述する設問の正答率は42.3%で、市の平均を大きく下回っている。 ●安全性の高い自動車づくりについて、資料をもとに考える設問の正答率は、市の平均を6.5ポイント下回っている。	・グラフや地図、写真などの資料から必要な情報を読み取る方法を繰り返し指導する。 ・資料から読み取った内容について考え、文章で表現する機会を計画的に設定する。 ・問題の意図を正しく理解できるよう、算数におけるグラフの読み取りや国語における考えの整理・表現活動など、他教科と関連付けて指導する。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均とほぼ同程度である。 ○情報の発信と受信の注意点について考えているかを問う設問の正答率は96.2%で、市の平均を7.2ポイント上回っている。 ●情報を生かした産業について考える設問の正答率は、84.6%で、市の平均を8.5ポイント下回っている。	・情報との関わり方についての理解は見られるが、日常生活の中でどのように情報化社会と関わっているかに目を向けさせ、その影響や利便性について考えさせながら、適切に活用する力を育成する。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より低い。 ●基本的人権の尊重について理解しているかを問う設問の正答率は46.2%で、市の平均を大きく下回っている。 ●法律ができるまでの流れについて、資料から読み取る設問の正答率は、53.8%で、市の平均を大きく下回っている。	・日本国憲法で保障されている基本的人権の尊重について、社会科の学習にとどまらず、人権週間等の機会も活用して継続的に扱う。 ・衆議院・参議院や税金の働きについて、用語の理解にとどまらず、その仕組みや役割まで正しく理解できるよう指導する。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より低い。 ○鎌倉幕府の政治の仕組みの理解をもとに、資料を読み取っているかを問う設問の正答率は61.5%で、市の平均を1.6ポイント上回っている。 ●江戸時代の禁教と鎖国について、適切な資料を判断する設問の正答率は30.8%で、市の平均を大きく下回っている。	・歴史的事象について、用語の正答にとどまらず、その内容や背景まで正しく理解できるよう指導する。特に、文章で説明された内容を読み取り、意味を捉える力を育成していく。 ・年表を活用し、歴史的背景や前後の出来事との関連を確認しながら、各時代の特色を総合的に理解できるようにする。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.2	72.1	74.6
	図形	61.5	76.5	76.1
	変化と関係	51.5	67.1	59.7
	データの活用	54.6	65.0	64.5
観点別	知識・技能	64.1	73.8	74.7
	思考・判断・表現	55.6	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

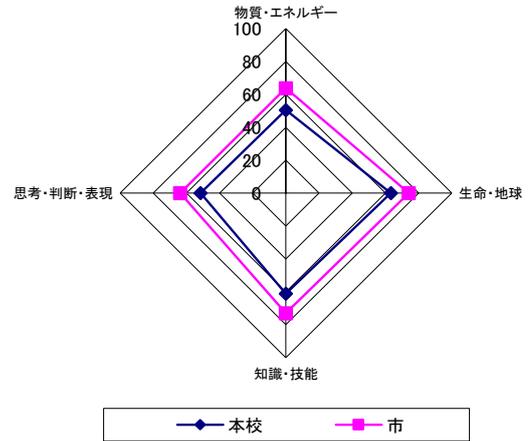
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均よりもやや低い。</p> <p>○真分数÷整数の計算では、正答率が8割を超えており、市の平均と比べても11.8ポイント上回っている。</p> <p>●文字の式において、2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める設問では、市の平均よりも27.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算技能が定着するよう、今後も学習内容に合わせた計算問題や類似問題に積極的に取り組めるようにする。 問題文を理解するために絵や図を活用して内容を整理したり、問題の意味を言葉で説明する場を設けたりして、問題文を正確に理解して答えを導くことができるようにする。
図形	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○平行四辺形の面積を求める式を理解しているかを問う設問では、市の平均を上回っている。</p> <p>●三角形の3つの和の角を理解し、2つの角の大きさから1つの外角を求める設問では、市の平均より43.5ポイント下回っている。</p> <p>●3辺の長さを使って、合同な三角形を作図する問題では、市の平均よりも17.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質について、各学年において実物やICTを活用しながら丁寧に扱っていく。実物を取り扱ったり、製作したりする活動を取り入れながら理解の定着を図る。 作図の図形については、道具の使い方をくり返し指導するとともに、条件に合わせた作図の方法について考えさせたり説明させたりする活動を取り入れて指導する。
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>●車両数と人数の割合から、最も混んでいる車両を求める設問では、市の平均より27.1ポイント下回っている。</p> <p>●基準量と割合から、比較量を求める設問では、市の平均よりも24.2ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単位量あたりの大きさや割合の学習の際には、生活に紐づけて実感を伴って理解できるようにする。また、問題文を正確に読み取ることができるようにするために、類似問題に繰り返し取り組ませる。
データの活用	<p>平均正答率は市の平均よりも低い。</p> <p>○円グラフを正しく読み取る設問では、市の平均よりも4.8ポイント上回っている。</p> <p>●度数分布表を完成させる設問では、市の平均よりも24.2ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 算数の学習に限らず、他教科においてもデータやグラフを見る際には、正確な数値を読み取ったり、比較したりしてデータを読み取る力を養っていく。 「未満」や「以上」等の意味について繰り返し指導して、定着を図る。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	50.5	63.8	61.6
	生命・地球	63.2	74.1	73.3
観点別	知識・技能	61.1	73.0	71.3
	思考・判断・表現	51.5	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○水に食塩を溶かしても、合計の重さが変わらないことを理解しているか確認する設問の正答率は76.9%で、市の平均を1.3ポイント上回っている。</p> <p>●電磁石の性質を指摘する設問の正答率が26.9%で市の平均を38.6ポイント下回っている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・侵食・運搬・堆積など、現象と用語が結び付きにくい内容は、写真・図・モデルで現象を確認した上で、用語を繰り返し使って説明する活動を取り入れ、基本語彙の定着を図る。侵食の設問で正答率が低い状況が見られるため、用語を「覚える」だけでなく「使う」場面を意図的に増やし、理解の抜けを減らす。</p> <p>・電磁石では、電流の向き・コイル・極(N/S)の関係を、矢印や図で整理してから短文で説明する学習を繰り返す。特に「向きが変わると何がどう変わるか」を、結果→理由の順で型を固定し、表現の負担を下げながら説明力を伸ばす。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○食べ物のもとをたどると、最終的に植物にたどり着くことを理解しているか確認する設問の正答率は88.5%で、市の平均を17.4ポイント上回っている。</p> <p>●浸食について確認する設問の正答率が38.5%で市の平均を22.9ポイント下回っている。</p>	<p>・児童に身近な話題や日常生活・他教科とのつながりを意識して扱い、既習知識を思い出して使える形にする。あわせて、用語を答える設問で正答率が低い点を踏まえ、掲示・反復・小テスト等で基本知識を確実に定着させる。</p> <p>・侵食・運搬・堆積は、写真・図・簡易実験などで現象を可視化した上で、「どこがどう変化するか」を根拠に基づいて説明する力を育てる。記述が苦手な児童には、結論→根拠→理由の型でまず1文から書かせ、表現を段階的に伸ばす。</p>

宇都宮市立田原西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自分の考えを書いたり話したりして言語化する力の育成 ・友達の考えをよく聞き、自分の考えと比べて考える力の育成	・授業の中で、自分の考えを文章で記述する時間を十分に取し、友達と考えを交流することで考えを広げたり深めたりできるようにする。	国語では、自分の意見とその理由を明確にして書くことは比較的よくできていた。しかし、必要な用語を使って説明する問題の正答率が低かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国語、算数、理科、社会のすべてにおいて、問題文を正確に読み取った上で必要な用語を使って説明したり、目的に応じて文を書いたりすることが苦手な児童が多く見られる。振り返りや考えを書く際、キーワードや文型を示して書くことへの抵抗感を軽減し、書くことに慣れるようにしていく。

・ほとんどの教科・領域において、正答率が市の平均を下回っており、基本的な知識・技能の習得に課題が見られる。児童が意欲をもって主体的に学習に取り組むことができるよう、ICTを活用する、実物を使う、身の回りにある課題から入る等、導入の工夫をするとともに、児童の考えを生かし、児童同士の考えをつなげて学習を深めることができるよう、授業における教師のコーディネート力を高めていく。